

# 第5回 銚子市総合計画策定「市民ワークショップ」概要

平成30年2月9日（金） 銚子市保健福祉センター2階会議室

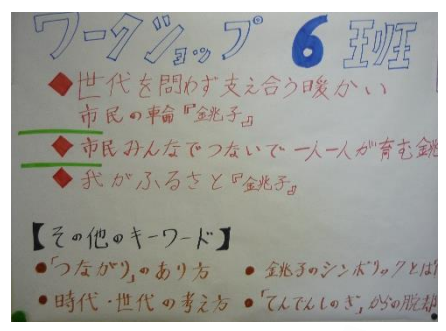
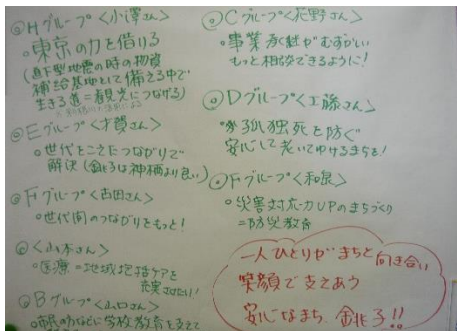
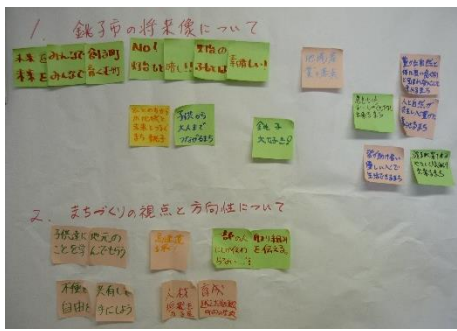
今回の市民ワークショップは、総合計画「基本構想」の素案を皆さまにご覧いただき、「銚子市の将来像」や「まちづくりの視点と方向性」などを議論していただきました。



## ワークショップの様子



## 各グループのまとめ



45名の皆さまにご参加いただきました。



第5回 総合計画策定「市民ワークショップ」 平成30年2月9日（金）

各グループのワークショップで議論された銚子市の将来像・意見・キーワード

1班

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来をみんなで創る町</li> <li>・未来をみんなで育む町</li> <li>・No! 灯台もと暗し!! 灯台のふもとは素晴らしい!</li> <li>・ひとのちからが地域と未来をつなぐまち銚子</li> <li>・子供から大人までつながるまち</li> <li>・地場産業の基点</li> <li>・食も心もおいしくもてなしできるまち</li> <li>・銚子にきてね やさしく気配り出来るまち</li> <li>・豊かな自然と体に良い食べ物と囲まれ安心して住めるまち</li> <li>・人と自然が共生し心豊かに暮らせるまち</li> <li>・皆が助け合い優しい心で生活できるまち</li> <li>・銚子大好き!</li> </ul> |
| <p>キーワード<br/>(まちづくりの<br/>視点と方向性)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達に地元のことを学んでもらう</li> <li>・不便を共有して自由を手にしよう</li> <li>・高速道路の整備（早く）</li> <li>・一部の人にしか伝わらない</li> <li>・取り組みを伝える。</li> <li>・人材育成（垣根を超えた勉強会、寺子屋、町内の学校）</li> </ul>  |
| <p>どうして・・・</p>                       | <p>・銚子について、銚子の良いところ、銚子にしかないもの、銚子でしか見られない風景、当たり前になっていて、銚子の良いところを外だけでなく、市民でさえ一部の人しか知らない。子どもたちに伝えられていないことが多々ある。</p> <p>・車での移動が多く、「ドア to ドア」では気が付かないことがある。</p> <p>・徒歩、銚子電鉄等公共交通機関を使って移動すると、いろいろな発見をすることができる。</p> <p>・せっかくある観光資源、食材等をうまく活かすことができていないのでは。</p> <p>・外から来た方へのサービスが上手く回っていない。</p> <p>・その時に知りたいことだけで、色々なことが発信されていても自ら取りに行くことがされていない。</p> <p>(もっと知ろうとしてほしい)</p>         |

## 2班

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>  | <p>・バリバリ働く ワクワク遊ぶ キラキラ住むまち銚子</p>  |
| <p>議論の中で出された<br/>キーワード・意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活気を取り戻したい</li> <li>・あきらめたくない</li> <li>・この街が好きだから</li> <li>・将来像を想定したうえで考えた方が良い</li> <li>・前の100年、次の100年において共通するものは何かを考えたい</li> <li>・外からの目線で考えては？<br/>(視点を変えることによって見え方が変わってくるのではないか)</li> <li>・都会を真似る必要はない</li> <li>・自慢できる街へ</li> <li>・地域資源と市民の力を活かせるまち</li> <li>・ゆとりある時代、ライフスタイルを楽しみたい</li> <li>・自然と人をつなげたい</li> <li>・しっかり働く、しっかり遊ぶ</li> </ul> <p>○銚子市のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さかな、キャベツ (地域資源)</li> <li>・海、水平線 (景観)</li> </ul> |
| <p>付箋により<br/>出された<br/>意見</p>  | <p>プラスαの力・活気・活躍・個人の能力・成長・連携 (共生)・誇り・自慢・<br/>憧れ・有名・元気・やさしい・食べる・社会的・出会い・仕事・のんびり・<br/>涼しい・不便はうれしい・近くて遠い・住んでみて自慢できる町・観光ので<br/>きる町・雇用の確保・元気に働くワクワク遊ぶ豊かに住むまち銚子・戻りた<br/>いまち・帰りたいまち・住みたいまち・水平線・海・利根川 (板東太郎)・<br/>魚・キャベツ・若者・子供・悠久・美しい自然・残すもの・若者も高齢者も<br/>輝けるまち・次の百年・地域資源</p>   |

### 3班

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>  | <p>いい銚子 いい調子 (まちの名前にかけて銚子⇔調子)</p>  |
| <p>議論の中で出された<br/>キーワード・意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人のつながり、資源もつながっていくべき</li> <li>・銚子には人を受け入れにくいところがある</li> <li>・否定をしなければみんな同じ方向を向ける</li> <li>・最終形はない、プロセスが魅力的になるかどうか</li> <li>・気候が良い(温暖)、住み良い</li> <li>・共感(わかち合う)</li> <li>・想像(生みだす、何かが広がる)</li> <li>・創造(見つかる、発見)</li> <li>・大地→食(強み) ⇔生活のしづらさ</li> <li>・つながる、ふれあう(ヒト・モノ・カネ)</li> <li>・子育て応援</li> <li>・対話し続けるまち</li> <li>・コミュニティ暮らし</li> <li>・安心して暮らせる</li> <li>・人と大地がふれあえる銚子 人と大地にいやされる銚子</li> <li>・世代をつなぐ つながり</li> <li>・潜在能力を引き出す</li> <li>・市民のちからがつながる</li> <li>・まだまだ元気</li> <li>・小さくても豊かさが実感できる</li> <li>・稼げるまち、仕事があるまち</li> <li>・市内で行われる行事、イベントの情報を行政で集約して紹介すべき</li> <li>・神栖市や他のまちは動いているが、銚子市は停滞している</li> </ul> |

## 4班

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・涼夏温冬住み易い町銚子</li> <li>・たのしい、おいしい、くらしやすい!</li> <li>・あふれる自然が魅力を感じ人がうれしく元気になる町銚子</li> <li>・てんでんにつながり、ぬぐぬぐ粋生きでざるまち銚子</li> <li>・銚子の魅力を世界に届けよう!</li> <li>・ひとつがつなく未来 笑顔がつながるまち</li> <li>・ハイカラ銚子</li> </ul>  |
| <p>議論の中で出された<br/>キーワード・意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の様々な活動や計画について説明会を開催してほしい</li> <li>・興味のある活動や取組があっても、個人ではどうしていいかわからない</li> <li>・協力や手伝いでつながりが出来る</li> <li>・自分たちの世代がつながりを作らないと、若い世代でつなぐことは更に、難しくなってしまうのでは</li> <li>・自分たちで情報発信ができない→高齢者が多い(若者が集まらない)</li> <li>・グループ活動へ新たに加入する人が少ない<br/>(自分にメリットがないとやりたがらない)</li> <li>・近所付き合いが減ってきている<br/>(しかし、昔の日本人はこれを求めてきたのではないか)</li> <li>・場の共有、時間の共有、テーマの共有</li> <li>○団体・グループ・ボランティアなどが「つながる」には?             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信、多分野(様々なスキル)</li> <li>・外からの目があれば、新しいものが見つかる</li> <li>・多世代(高齢者、子供、学生)、県外からの目(他地域)</li> <li>・海鹿島は昔、避暑地だった。</li> </ul> </li> </ul> |

## 5班

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりがまちと向き合い 笑顔で支え合う 安心なまち銚子！！</li> <li>・笑顔で安心して暮らせるまち</li> <li>・安心して老いていけるまち</li> <li>・変化に対応できる力を持ったまち</li> <li>・未来につないでいくまち</li> <li>・一人ひとりが受身ではなく、自発的に行動するまち</li> </ul>   |
| <p>議論の中で出された<br/>キーワード・意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害は避けられない。防災教育は地域を知ることにもつながるため、災害対応力アップのまちづくりが必要</li> <li>・利根川を活用し、直下型地震発生時の物資補給基地とすることで、災害に備えるとともに観光にもつなげたい</li> <li>・人は一人ではなく、地域の皆の力で生きている。孤独死を防ぎ、安心して老いていけるまちづくりが必要</li> <li>・更なる高齢社会の到来が予想されるため、地域包括ケアを充実させたい</li> <li>・事業承継が難しい、事業者の情報を積極的に公開し、もっと相談できる体制づくりが必要</li> <li>・世代を超え、つながりで解決（銚子は神栖より良い）</li> <li>・世代間のつながりを更に強化し、様々な問題解決につながる</li> <li>・市民の方などに学校教育を支えてもらいたい、教えてもらいたい。</li> </ul> |

## 6班

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <p>銚子市の将来像<br/>(キャッチコピー)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代を問わず支え合う暖かい市民の輪「銚子」</li> <li>・市民みんなでつないで一人一人が育む銚子</li> <li>・我がふるさと「銚子」</li> </ul>   |
| <p>議論の中で出された<br/>キーワード・意見</p> | <p>○「つながり」のあり方<br/>(つなぐという考え方は世代間で異なる。特に町内(地域コミュニティ)との関わり方は顕著である)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母世代＝地域とのつながりが強い</li> <li>・親世代＝地域とのつながりに煩わしさを感じつつ一定の付き合いがある</li> <li>・子世代＝親世代を見ているのでより一層地域とのつながりを面倒に感じる</li> <li>・「つなぐ」という表現だけでは世代間でギャップが生じる可能性がある</li> <li>・SNSの普及で若い世代は地域とのコミュニティに必要性を感じなくなっている(SNSでのつながりを「楽」に感じる)</li> <li>・他の地域に誇るシンボリックな存在が必要であり、市民が共感を抱く核のようなものを見つけない</li> <li>・「てんでんしのぎ」から脱却する必要がある。それを総合計画に盛り込んでみてはどうか</li> </ul> <p>○よそ者から見た銚子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚や野菜はおいしい</li> <li>・人が親切なところが良い</li> <li>・居住するにあたり特段の不便は感じない</li> <li>・交通の便が悪い(もう一回来たい(住みたい)とは思わない)</li> <li>・オシャレなスポットがほしい</li> </ul> |

## 第5回市民ワークショップ講評

### 千葉大学 関谷教授

皆さまお疲れさまでした。

各班の発表を聞いてみて、色々な表現方法があることを改めて実感した。皆さんならではの感性や銚子をどのようにしていきたいかなど、各班良くまとめられており、楽しく、そしてイメージが湧く言葉や視点を出していただいた。

将来像やキャッチコピーを一つにまとめることは無理だが、できるだけ今回出された意見や視点からイメージできるようなものを掲げたいと思う。しかし、もっと意見を出し合って練っていく必要がある。今の時点で固める必要はなくて、時間をかけて練って行ければと思う。

どのようなやり方でまちづくりを進めていくのか。3点だけ申し上げたい。

1点目は、銚子市にどんな問題や課題があるのかを徹底的に深掘りすることが、まちづくりの視点として非常に大事になってくる。一般論レベルの話をしていてもまちづくりは盛り上がらない。どんな問題があるのか、どの人がどのように困っているのか、とことん掘り下げなければならない。色々な街を見ているが、深掘りが足りていない。一般論にとどまっているから問題が共有されていない。一般論レベルだと人々も実感しないし、何かやってみようとも思わない。

市民は無関心だと言う人がよくいると思うが、そうではなく無関心とは関心を持つに至るまでの情報や現実を知らないから関心が持てていないと思う。人々がもっと情報や現実を知ることができれば、あれならできる、これならできるといった動きが広がっていく。地域資源の掘り下げにも、つながってくる。地元ならではの磨き方や表現の仕方があるのではないかと思う。市民が話をする場、考える場を市内の色々な所につくっていくイメージ。中間団体などの、色々な立場の人、色々な世代の人が情報や問題を共有することが大切。18世紀のヨーロッパでのカフェ文化、喫茶店で地域の事を皆で話合うイメージ。場や機会を設けることが大事になってくると思う。

2点目は、「つなぐ」。色々な分野、領域をつないでいく、団体や取組を行っている人たちをつなぐ、イメージとしては「円卓会議」色々な立場の人が情報を持ち寄ってくる。まちづくりは持ち寄りのイメージがある。まちづくりの形や可能性を紡がれていけるかどうか大切になってくる。この辺を意識的に行っていく。意識しないとどうなるかと言うと、世代間、団体間の壁がどんどん厚く高くなってしまふ。引きこもり社会になってしまふ。意識的に越えよう、つながろう、結び付けていこうと行動しなければいけな



い。それも、1回や2回ではなく、これでもかと思うくらいやらないと壁は越えられない。どの街でも苦勞するのはこの点。人間はどこか飽きやすいところがあり、もう十分、忙しくなったからやめようとなると内向きの力学が働いてしまう。しかし、色々な人の動きがあれば、例え自分が立ち止まってしまっても、他の人の動きがある。また、その動きが刺激になる。そうなるのが理想である。

3点目は、「市民と行政をつなぐ」。このような計画づくりを行政では、今までやってこなかったと伺っている。ワークショップの様子を見ていると対話をするということがすごく大事だと実感できる。行政がやっていることを市民が知らないといけない、市民にどんな力があるのかを行政は知らないといけない。まだまだ両者の間に壁や信じきれない部分があるかもしれない。つながりを媒介するリーダーや組織が出てこないとながりの部分が強まらない。こういった点を重視しながら計画づくりを進めたいと思う。

市民ワークショップとしては、今回で一段落。来年度は更に、個別具体的な事業、取組、市民活動や地域活動としてやってきたことをもう一度洗い出して、基本構想にうまく位置付けていきたい。

もっと結びついて欲しい事業や団体がある。色々な所に目を向けながら、掛け合わせが豊かになれば良いと思う。子育てを例に挙げると、子育てしている方がどんな事を思っているのか、どんな期待をしているか、どんな力を持っているのか、もっと話を聞いてもっと力を引き出す、そういった計画づくりが出来れば良いと思う。

基本計画づくりでも、皆さんの力を最大限に発揮していただき、これまで5回のワークショップを連続して行ってきたが、この流れを基本計画づくりにつなげていく、流れを絶やすことなく今後の計画づくりを行っていきたい。